

〔海況概要〕

今週の本県近海の表面水温は、20～24℃台を示し、平年並み～やや低めの水温でした。

〔漁況概要〕

- 中小型まき網——西彼地区では、マサバなどが1日1統当たり39トンの水揚げで、前週の3.9倍（前年を上回った）。五島奈留地区では、ウルメイワシなどが1日1統当たり1トンの水揚げで、前週の20%（前年を下回った）。北松南部地区では、マサバなどが1日1統当たり16トンの水揚げで、前週の59%（前年を上回った）。
- イカ釣——スルメイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり4kgの水揚げで、前週の29%（前年を下回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり105kgの水揚げで、前週の22%（前年を下回った）。ケンサキイカは、対馬東岸地区では1日1統当たり92kgの水揚げで、前週の2.6倍（前年を上回った）。壱岐勝本地区では、1日当たり299kgの水揚げで、前週の72%（前年を下回った）。
- 定置網——五島魚目地区では、シイラなどが1日1統当たり1.5トンの水揚げ。対馬西岸地区では、マアジなどが1日1統当たり81kgの水揚げ。対馬東岸地区では、ケンサキイカなどが1日1統当たり289kgの水揚げ。
- 一本釣——北松宇久地区では、ヒラマサなどが1日1統当たり195kgの水揚げで、前週並み（前年を下回った）。

〔日本海スルメイカ情報〕

今期（10/25～10/31の7日間）沖合イカ釣（船凍船）は、隠岐諸島北で操業。沿岸イカ釣（氷蔵船）は、壱岐・対馬及び山口沖～浜田沖～隠岐諸島沖～鳥取沖～能登半島沖～佐渡沖～山形沖で操業。鳥取県西部（沖合船）4日延19隻、総計937箱、1航海最高177箱、平均49.3箱。スルメイカ（20～30入）429箱、ケンサキイカ（2立～3立半）508箱の混獲となった。

（漁業情報サービスセンターより）

〔お知らせ〕

漁海況通信「第4-26号 6県ケンサキイカ情報（令和4年度 第5号）」を公表しました。漁海況週報や漁海況通信は、長崎県庁ホームページ「地方機関 総合水産試験場」の「漁海況情報」からご覧いただけます。

<https://www.pref.nagasaki.jp/section/suisan-shiken/index.html>